

令和7年度幼保小教育交流事業【栄地区】

幼保小教育交流事業活動報告

「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」
～架け橋期のカリキュラムの充実に向けて～



令和7年度テーマ「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」 ～架け橋期のカリキュラムの充実に向けて～

【テーマ設定の理由】

栄区では、園児・児童の十分な理解と情報の共有化が円滑な接続を支えており、子ども達の健やかな成長を育む基盤となっている。また、幼稚園・保育園での主体性を大切にした活動が小学校の教育活動に生かされ、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことにつながることを強く意識し、「子どもの育ちと学びをつなぐ幼保小の交流と連携」というテーマで、子どもの姿を通してブロックごとの実践を中心に活動を進めている。

また、小学校学習指導要領や幼稚園教育要領、保育所保育指針において、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の重要性が明確に位置付けられ、遊びや学習を通して資質・能力を育成していくことが求められている。さらに国の動向として、年長児4月から1年生3月までの2年間を「架け橋期」とし、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期として、この時期のカリキュラムを充実させていくプログラムが進められている。園児と児童の交流はもとより、保育者・教職員の交流や連携の大切さと必要性を再認識するとともに、子ども達が自己を発揮しながら主体的に学びに向かうことができるよう、～架け橋期のカリキュラムの充実に向けて～をサブテーマとして、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子ども一人ひとりの姿を大切に捉えながら、幼児期の学びと小学校教育の学びがにつながる架け橋期のカリキュラムの充実を図る取組を進めていきたい。3年目のテーマを継続することで充実を図っていきけるようにしたい。

栄地区について

幼稚園・・・・・・・・・9園

保育園・・・・・・・・20園（うち認定こども園3園）

小学校・・・・・・・・15校

全 44校・園

地域ごとに7つのブロックに分かれ、交流や公開保育、授業参観などの活動をしています。



●園長・校長会(年間2回開催)

- ・6月・2月に開催
- ・栄区としての活動を協議
- ・各交流ブロックごとに取り組を立案、振り返り
- ・情報交換

●実行委員会(年間5回開催)

- ・年度計画立案
- ・研修会等の計画・運営
- ・ブロック別交流の進め方検討
- ・事業のまとめ、次年度計画

令和7年度栄区事業報告

●第1回実行委員会5月1日(木)

- ・自己紹介・令和7年度の事業内容についての確認他

●第2回実行委員会5月16日(金)

- ・園長校長会の運営について・幼稚園参観、講演会について他

●第3回実行委員会10月2日(木)

- ・ブロックごとの参観について・講演会打ち合わせ・役割分担他

●第4回実行委員会12月4日(木)

- ・講演会打ち合わせ・第2回園長・校長会の運営について

●第5回実行委員会3月5日(木)

- ・令和7年度の反省とまとめ
- ・令和8年度において令和8年度テーマ設定他
- ★幼稚園・保育園・小学校参観9月～2月
- ・各ブロックで幼稚園・保育園・小学校参観
- ※別のブロックからも参観できるようにした

●園長・校長交流会

●第1回園長・校長交流会

6月3日（火）15:00～

栄区役所101・102号

- ・栄地区テーマについて
- ・栄地区事業計画について
- ・交流ブロックについて
- ・推進地区の取組について
- ・接続期カリキュラム推進地区の取組について
- ・情報交換他

●第2回園長・校長交流会

2月17日（火）15:00～

栄区役所101・102号

- ・令和7年度事業報告
- ・補助金決算報告
- ・担当者会取組報告
- ・健やか子育て講演会報告
- ・推進地区からの報告
- ・各ブロックの話し合い
- ・情報交換他

●健やか子育て講演会

講師一般社団法人シーズグロースコーチング 代表理事 橋口奈生先生
(栄)区実行委員会

テーマ	「子どもに安心感を与え、本音や思いを引き出す聴き方 コーチングコミュニケーション《傾聴》」
内容	<p>【 信頼関係の土台は「安心・安全」 】 人は安心・安全を感じたときに心を開き、相手の言葉を深く受けとる。逆に、危険だと感じた時にはガードを固くし、影響を受けないようにする。 つまりコミュニケーションとは、「上手に話す能力」よりも、「安心な関係を作る能力」が大切ということである。</p> <p>【 聴く 】 コミュニケーションの主体は「話す人」ではなく、「聴く人」。しかし、実際は聴かれていないと感じる人はとても多い。 (1)どんな聞き方をされているから「聴かれていない」と感じるのか。 → 適当な相槌、時計を見る動作など。 → 「でも・・・」との発言。話題の乗っ取り。 (2)人は聴かれないとどうなるのか？ → 寂しい気持ち、孤独感。</p> <p>人間はお互いに関わり、協力をすることでお互いの存在を確認し合う生き物。 生物学的にも心理学的にも孤独し、ひとりぼっちになるのは生存の危機を意味することになる。 また、聴かれると、自分が受け入れられると、安心感、信頼感が生まれ、心に余裕ができる。 すると、人を受け入れられるようになり自ら動き出す原動力となる。</p> <p>【 傾聴 】 (1)自分の価値観をひとまず置いて、評価、批判、判断をしないこと。(2)あるがままの相手をそのまま聴くこと。(3)意識的に、興味をもって相手の話を聴くこと。(4)相手を信じて待つこと。(5)たとえ、自分と意見が違っても受けとめること(受け入れなくともよい)。</p> <p>【 参加者の感想 まとめ 】 本講演会では、「聞く」「聴く」「傾聴」の違いを学び、参加者の多くが自身の関わり方を振り返る機会となった。傾聴は子育てだけでなく、保育や職場、家庭などあらゆる人間関係の土台であり、短時間でも質の高い関わりを意識したいという前向きな声が多く聞かれた。</p>

●担当者会について

栄地区では、各ブロックが交流や連携を具体的に進められるよう、令和6年度より『担当者会』を開催しています。





今年度は6月24日（火）
に開催。

36校・園（全体の8割）
の担当者が集まりました。



こども青少年局幼保小連携担当の阿部圭子先生をお招きし、
『架け橋カリキュラムデザインシート』についてのミニ研修を実施。





実際に『架け橋カリキュラム
デザインシート』を利用して
意見交換をしました。





また、研修後には「どのような交流をしていきたいか」「どのような連携ができるか」話し合いました。



この日の計画をもとに、各ブロックで様々な交流・連携に取り組んでいます。



主な活動例

- ・学校での交流
- ・花のプランター栽培
- ・公開保育・授業、
施設見学 など



栄区幼保小交流事業 Aブロック 公開保育 活動報告

飯島小学校、千秀小学校、豊田小学校
飯島幼稚園、飯島保育園、いいじまルーテル保育園

日時 令和7年9月26日(金)9:30-10:30

場所 飯島保育園



内容 4・5歳児ムーブメント

子どもたちが主体的に参加できるよう工夫された内容で、活動全体を通して、一人ひとりが意欲的に関わる姿がとても印象的でした。特に、ヒーローに扮した保育者と園児とのやりとりは、子どもたちの想像力や表現意欲を大きく引き出しており、会場全体が一体となって盛り上がる様子から、導入や関わり方の重要性を強く実感しました。

専用の用具を使用して行われていましたが、特別なものを購入しなくても、身近な素材を工夫して代用することで十分実践可能であると知り、日々の保育にすぐ取り入れられる点も大きな学びとなりました。

本研修を通して、子どもの「やってみたい」という気持ちを引き出すためには、保育者の発想力や演出力、そして子どもへの関わり方が非常に重要であることを改めて認識しました。



B ブロック活動報告

小菅ヶ谷小、小山台小、小菅ヶ谷幼稚園、やまゆり幼稚園、エミールの森ひよこ保育園



ブロックでの活動

- ①授業参観（小山台小）
- ②チューリップの球根購入（各校、園20球）
- ③園児、児童交流

11月に小山台小学校が授業公開を行いました。

小菅ヶ谷小では、5年生が9月、11月に、2年生が11月に、1年生が12月に幼稚園、保育園交流を行いました。小学生は自分たちが幼稚園、保育園児だった時のことを思い出しながら園児が楽しめる活動を考えていました。一緒に歌や遊びを行うことを通して、園児が小学校への期待感や安心感をもつことができるよう計画を立てて活動を行いました。



Cブロック活動報告

桂台小学校 公田小学校 かつら愛児園 公田保育園 桂台保育園



10月9日(木)、桂台小学校で、桂台小学校、公田小学校、桂台保育園、上郷いちい保育園と交流しました。1年生がリードする形で『虹』を歌ったり、『猛獣狩り』の小学校版のゲームをしました。初めはお互い緊張していましたが、徐々に表情がやわらぎ、とても楽しめている様子でした。顔見知りができ、保育園児は小学校就学に向けて、期待を膨らませることができました。



11月20日(木)、かつら愛児園の公開保育がありました。桂台小学校から2名、公田小学校から1名、桂台保育園から5名、公田保育園から2名、飯島保育園から2名、栄区役所から1名の参加がありました。5歳児クラスの子ども達の歌やハーモニカ演奏、お遊戯を見せていただき、最後は園庭でリレーを頑張る姿に皆拍手で応援しました。他園の保育を知る良い学びの機会となりました。



3ブロック共通で、チューリップの球根を各小学校、各保育園で植えました。小学校の子ども達は、迎え入れる新1年生が、小学校に入学した後、咲いたチューリップを見て、心が和むように。保育園の子ども達は、卒園した後、進級や新入の子ども達が不安な気持ちが癒されるように、心を込めて植えました。色とりどりのチューリップがたくさん咲きますように。

Dブロック活動報告

- ・庄戸小学校 ・上郷小学校 ・ふあみりーさぼーとのあ
- ・認定こども園いのやま幼稚園／いのやま保育園

★出会い★



公園での出会いをきっかけに
交流が始まりました！

★交流★



「学校のことを知ってもらって、わくわくしてもらおう」をめあてに小学校で交流しました。

一緒に学校探検をしました！

最初にお互いに自己紹介をしました！

お別れをするときは、みんなで花道をつくってハイタッチをしました。

交流を通して仲を深め、名前を呼んで会釈する姿が見られました。交流したことで「早く入学してきてほしいな」「早く1年生になりたいな」と楽しみが増す様子も見られました。年長さんは安心して活動に参加し、1年生は相手意識をもって活動する様子がたくさん見られました。



Eブロック活動報告

本郷小学校・桜井小学校
鍛冶ヶ谷カトリック幼稚園
静心幼稚園

認定こども園中野幼稚園中野どんぐり保育園

スタートカリキュラム
4月



小学校生活のスタート。幼稚園の先生たちと一緒に、歌や手遊びを楽しみました。

職員研修 7月



幼稚園・保育園で3月までに、小学校で4月に取り組むとよいことや今後、どのような交流をしていきたいかを話しました。

スタートカリキュラム
8月



夏休み明け、小学校でのスタートカリキュラム夏の様子を幼稚園の先生たちが参観しました。その後、園内研修もしました。

交流会 10月



1年生が幼稚園に行きました。年長児とグループになって、ゲームやダンス、折り紙をして、仲を深めました。

公開保育 11月

認定こども園中野幼稚園中野どんぐり保育園の保育を参観しました。当日は芋ほりをしていて、芋を大事そうに抱えている姿やつつで遊んでいる姿が見られました。



交流会 1・2月（予定）

年長児が小学校に行きます。1年生が学校案内をします。ランドセルや教科書等を使う学校生活体験、授業の体験をします。一緒に遊ぶ時間もあります。



F ブロック活動報告

- ・ 笠間小学校・西本郷小学校
- ・ いいじまひがしこども園 ・ 大船ルーテル保育園 ・ かさまの杜保育園
- ・ 杜ちやいんど保育園 ・ アスク大船保育園



7月23日（水）幼保小合同研修会 架け橋期コーディネーターを講師にお招きし、合同研修会を行いました。

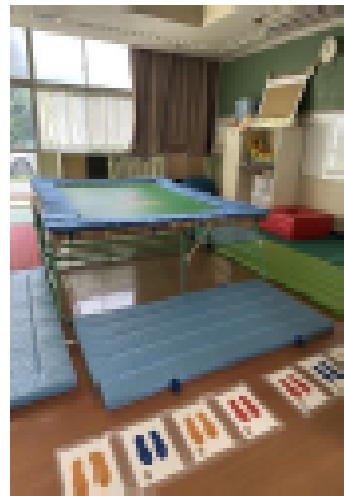
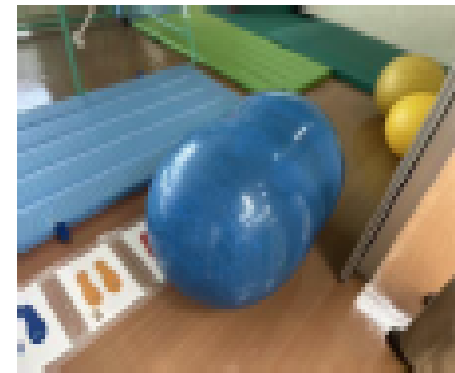
9月 9日（火）西本郷小学校 1年生国語「わかりやすく つたえよう」の公開授業研修会を行いました。

12月16日（火）「ねんちょうさんとなかよくなるうのかい」を行いました。

Gブロック活動報告

本郷台小学校 本郷特別支援学校 新大船幼稚園 やまゆり保育園
ベネッセ本郷台保育園 すずかけ保育園 ニチキッズさくら本郷台保育園

令和7年度幼保小教育交流事業栄地区公開
保育・参観（Gブロック）



日時：令和7年9月29日（月） 場所：本郷特別支援学校体育館・小学部教室

【対象：小学部1～2年生】

1 限目 2年生 体育

<授業内容>

・バチバチマン体操・ランニング・タイフーン競走・ジャンボリーミツキー

全身を使った活動に楽しそうに取り組む様子が見られた。児童の特性や発達段階に合わせて、教師が声をかけたり手本を示したりしながら支援していた。

2 限目 1年生 図工

<授業内容>

・蛍光絵具やキラキラパーツを使った制作指先を使った表現活動を通じて、子どもたちが思い思いに作品を仕上げていた。必要に応じて教師が個別に援助し、一人ひとりの意欲を引き出していた。

<施設見学>

・トランポリンルーム・プレイヤード・温水プール・空き教室

<観察事項> 活動の切り替え時には、ピクトグラム（通称「ピック」）を用いた目録表が示され、子どもたちが視覚的に理解しやすい工夫がなされていた。

教師は児童の気持ちや行動を丁寧に受け止め、やり取りを広げながら活動を支援していた。

トランポリンルームやプレイヤードといった環境は、子どもが安心して集中できる居場所となっており、それぞれの実態に合わせた柔軟な対応が行われていた。

同じ課題に取り組むことを通じて、子ども同士が「共に活動する」経験を積み重ねている様子が見られた。

<感想> 今回の授業を拝見し、一人ひとりの特性や発達段階に応じた丁寧な関わりが随所に見られ、大変学びになりました。特に、ピクトグラムを用いたわかりやすい視覚支援

が子どもたちの安心感につながっていたこと、またトランポリンルームやプレイヤード、はまっこ広場といった環境の工夫が、集中や気持ちの切り替えに有効であることが印象的でした。

先生方が一人ひとりに寄り添いながら環境を整えていく姿勢を、私たちの園でも大切にしていきたいと思えます。

貴重な機会をいただき、ありがとうございました。

〈全体を振り返って〉

【成果】

- ・連携事業3年目で見通しをもって、会や交流を進めることができた。
- ・担当者会では「架け橋リーフレット」を活用したミニ研修を行った。今回2年目の取組みであったが、職員同士の顔が見えるかかわりがさらに進み、それぞれの活動が充実した。園や学校が遊びを通してどのように学んでいるのか、互いを知るきっかけになり、その後の交流活動にも役立った。
- ・ブロック毎に保育や授業を見合うことで、子どもたちの過ごしている環境の違いや工夫されている点など、学ぶことがたくさんあった。
- ・特別支援学校の見学もさせてもらい、子どもたちが安心できる様々な環境整備がされていることが分かった。
- ・健やか子育て講演会では、多くの保護者に参加し、参加者同士が交流できる場面もありとてもよかった。
- ・5年生が総合的な活動で、園と関わる姿が見られた。高学年の主体的な活動を通して次年度の幼保小交流に生かしていくことができると考えた。
- ・1年生は、年長さんと関わることにより、一年前の自分と今を比べたり、相手の立場に立って考えるということができるようになってきた。
- ・学校が楽しい、学ぶことが楽しい、友達と一緒に楽しい、楽しい学校生活は自分たちで創っていくことができる、と思える子どもが増えてことが最大の成果と考える。

【課題・今後に向けて】

幼保小連携事業の取組みが、校内・園全体で行われているところもあれば、まだまだそうでないところもある。今後は、どの学校・園でも、担当者だけでなく全職員に取り組みを周知し、職員全体でテーマを共有して進めていきたい。また、来年度は持続可能な事業として引き継ぐために、情報の共有やデータ化を行い、より連携を深めるよう取り組みたい。